

宮城県立がんセンター広報誌



せりなべ



宮人ハ語ル

地域医療連携室 櫻場 晴美

おしえてせり爺！

患者サポートセンターとは？

毎回がんセンターの
スタッフに焦点を当て
て、その人物に自身の
思いを語ってもらう。
今回は地域医療連携
室の櫻場 晴美さんに
語ってもらいます。

み や び と か た 宮人ハ語ル



プロフィール

宮城県仙台市出身、宮城県仙台南高校、JR 東京総合病院
高等看護学園卒業。JR 病院、訪問看護ステーションでの
経験を経て 2011 年に宮城県立がんセンターへ入職。血液
内科 7 年、頭頸部外科・内科に 2 年病棟看護師として勤務。
その後、患者サポートセンター立ち上げ時に、地域医療連
携室へ異動。退院調整として入院患者への支援、外来部門
でも療養生活へ相談支援にあたっている。

地域医療連携室

さくらば
櫻場
はるみ
晴美

幼少期は

どんなお子さんでしたか

活発な子どもだったと思います。外で遊ぶことが好き
だったので、友達とかけっこや鬼ごっこをして遊んでいま
した。



写真：櫻場さんの幼少期

どんな学生時代でしたか

中学生から陸上を始めて、短距離や跳躍の選手でした。
短距離は瞬発力が必要なので、社会人になってからは長
距離にシフトしましたが、陸上は続けていてハーフマラソ
ンや10キロマラソンの大会に出場していました。

がんセンターの同僚に高校の後輩がいるのですが、その
子も学生時代から陸上をやっていて、社会人になってから
出場した大会でも顔を合わせたりしています。ちょっとし
た同窓会のようなです。子どもが産まれてからは走っていま
せんが、子どもが大きくなったら一緒に走るのも楽しそう
だなと思います。

趣味はなんですか

趣味は散歩です。基本的に体を動かすことが好きなので、
愛犬と一緒に散歩しています。あとは、編み物も好きです。

冬限定になりますが、子どもに似合いそうな色を考えて、
編み方を色々工夫しながら主に帽子を作っています。

健康面で気を付けて いることはありますか

特にありません（笑）

子どもとなると、自然に早起きになりますし生活のリズ
ムも日々の食事自然也に整ってくるので、出産前に比べる
と健康的な生活になっているのかもしれない。

この道を志したきっかけを 教えてください

小中学生の頃は保育士さんに憧れていました。人と係わ
ること、子どもと遊ぶことが好きだったので将来は保育士
になりたいと考えていました。

しかし、中学生の頃に看護師を意識することになる出来
事が訪れます。祖母が入院することになり、共働きだった
両親の代わりに、長期休み中だった私が入院の付き添いを
することになりました。その時に、夜勤で働いている看護
師さんを間近でみてかっこいいなと感じたのが、看護師に
憧れを持つきっかけだったと思います。その後、進路決定
の際に看護師の重要性について母から助言を受けたことも
あり、高校に入学するときには看護師を夢見るようになりました。

その他にも、子どもの頃からお世話になっていた、地元
のかかりつけ医の看護師さんや先生の雰囲気がとてもよく
て、どこのお宅の誰の孫かまでスタッフの皆さんが把握し
ているような。そんな、アットホームな雰囲気や患者さん
と診療所スタッフとの関係性が素敵だなと感じていたこと
も看護師を志すきっかけになりました。

看護師としてのキャリア

入学した学校がJR 病院系列の学校でしたので、卒業後
の7年間はJR 関係の病院で働いていました。その後、訪
問看護の道に進みましたが、訪問看護は、当時、現在のよ
うにメジャーではなく施設の数も少なかった為とても忙し
く大変でした。看護師は、介護保険を使つてのサービス、
医療保険を使つてのサービス、どちらも対応できるので保
険の取り扱い等管理業務が特に大変でした。多忙が続き、
あまり長くは続けられませんでした。訪問看護での経験
が今の業務に活かされていると感じています。

その後、一度看護師をやめようかと考えた時期もあり
ましたが、やはり憧れていた職業だった為、がんセンター
が独立行政法人へ移行するタイミングにがんセンターで働
き始め現在に至ります。

現在の担当業務

患者サポートセンターの地域連携室で退院調整業務を担
当しています。

外部医療機関と退院後の患者さんの調整をおこなう役割
なので、訪問看護での経験や知識がとても活かしていると感
じています。

業務のなかで 得意なこととはなんですか

退院後の患者さんの生活や療養環境をイメージすること
が得意です。

病院は療養環境が整っているので困りませんが、自宅だ
と環境が整っていないので「こういうものを導入しておく
といいんじゃない？」など、退院後の生活をイメージし患
者さんに必要な療養環境を円滑に整えられることは、訪問

看護をやっていた中で培ってきた強みだと思っています。

患者さんは、回復するのに精一杯です。中には、術後に障害が残ると理解しながら頑張っているけれど、実際、喋れなくなった時に気持ちの落ち込みが大きく、次のステップを考えられない患者さんもいらっしゃいます。そういう時は「ちょっと先を想像してみると、生活ってこうなるよね。」とか、「こういうことに困りそうだけど、どうだろう。」のように、患者さんに寄り添いながら退院後の生活を一緒にイメージし、一緒に考え、患者さんにより良い生活を送ってもらえるよう、患者さんの心の準備も含めたサポートを心掛けています。

休日の過ごし方を教えてください

2歳の子どもがいるので、今はもっぱら子供と公園で遊んでいます。

一緒にありを見ついたり、松ぼっくりを拾ったり、滑り台をいったい何本を滑るのかな〜と眺めたり、一緒に飛行機を見に行ったり、そんな休日を過ごしています。月曜日にどっと疲れたりしているので、休日の公園が息抜きになっているのかは不明ですけども…。一人の時間を作るのはまだ難しいので、スーパーで美味しいおやつを買うのが、自分へのご褒美になっています。自分の時間は、子どもが大きくなってから取れればいいかなと思っています。

最後にがんセンター職員として心掛けていること

がんの専門病院なので、より良い治療を期待し来院される患者さんが多いと感じています。

患者サポートセンターの一員として、常にアンテナを高

宮人を知る



地域医療連携室
大石 幸子 さん

私は地域医療連携室の退院調整部門で櫻場さんと、一緒にお仕事をさせてもらっています。

櫻場さんはバイタリティがあり、患者さんの退院後の生活が、より良いものになるよう日々訪問看護ステーションや地域包括支援センター等と連携を図っています。なので、電話で患者について熱く語っている姿が、私の頭の中にある櫻場さんのイメージです。2歳児の男の子のママで、業務終了後は子どもの保育所のお迎えのために大急ぎで帰っていく背中に「頑張れー」と心の中で応援しています。

訪問看護師の経験もあり地域のネットワーク情報の引き出しが多いので、とても頼りになる存在です。



看護師
佐々木 理衣 さん

櫻場さんを一言で表すと「エネルギーの塊」みたいな人です。

患者さんのご希望を第一に考えながら、医学的にもその希望がかなえられるか先生方含め、多職種とも積極的にコミュニケーションをとっている姿が印象的です。訪問看護師としての臨床経験もあり、在宅療養に関する知識が豊富で、生活の目標を共有しながら、患者さんの「生活」を多角的に捉え、安全に安心して生活できるような療養環境の提案をしてくださいます。私たち外来看護師の相談にもフットワーク軽く、丁寧にも乗ってくださる頼もしい存在です。



く持ちながら、専門的な知識をしっかりと身につけて、より良い情報を患者さんへ提供できるよう日々の自己研鑽を心がけています。そのうえで、それぞれの困りごとや不安に寄り添っていきけるよう、患者さん一人一人のお気持ちに耳を傾けていきたいです。

がんと心臓、血管障害



腫瘍循環器科
加藤 浩



タイトルをご覧になった皆様は「がんと心臓って何か関係あるの？」と素朴な疑問を抱かれたと思います、実際、多くの医療従事者も20年前前までは誰もそんなことを考えていませんでした。

医学の革新的な進歩により、がん患者の生命予後が改善し、様々なデータが集積されたことで、がん治療中（がん克服（完治）後でもがん自体および一部の抗がん剤が原因で心臓血管障害が発症することが近年わかってきました。

抗がん剤の中には心機能低下に伴う心不全や血管障害による高血圧症、狭心症、心筋梗塞、血液凝固異常に伴う血栓塞栓症などの合併症を起こすものがあることが知られています。

心不全を起こしてしまうと十分な

ん治療を行えなかったり、中断を余儀なくされたりするため、毒性を有する薬剤使用時は、がん専門医も細心の注意を払い、循環器科医と協力しながら定期的な心機能評価を行いつつ診療しています。

実際に出現しうる症状としては、心不全や血栓症では息切れ、むくみ、呼吸苦、狭心症では胸痛などの症状が出てきます。

喫煙習慣のある方、高血圧症や糖尿病などの持病がある方は、がん治療時の心不全合併率が高くなることもわかっており、常日頃からの健康管理が大切です。

当センターでは、様々な立場のスタッフが協力し、患者さんともにがん治療に取り組んでいます。がん治療開始後に新たな胸部症状を自覚した場合は遠慮なく担当医やスタッフにご相談ください。

ドクターは伝えたい『がん』のこと

手術後の「きずあと」について



形成外科
後藤 孝浩



口腔がんの切除で舌や顎が大きく切除されると、口からの飲食や発声に大きな障害を残します。また乳がんの手術で乳房が全摘されたままだと、ブラーと温泉に行きづらいなどの不自由さが生じます。こういった「形の異常」による様々な障害を治すのが形成外科です。

形の異常には「きずあと（傷跡）」も含まれます。手術後のきずあとは小さくて目立たなければいいのですが、顔や首、手足など人目につく部位では小さなきずあとでも目立つことがあります。また普段は衣服で隠れる部分であっても胸やお腹に大きな目立つきずあと（俗にケロイドと呼ばれるもの）があると、やはり温泉などでは気になります。さらに腋や肘、指などのきずあとは見た目の問題だけでなく関節の

動きに障害を生じることもあります。そういったきずあとに伴う様々な症状も形成外科の治療対象になります。

きずあとの治療方法はその部位や患者さんの体質などによって多少異なりますが、小さなものは外来治療（薬剤含有テープ、注射や切除など）によってかなり改善します。またこれまで治療が難しいとされてきた大きなケロイドも、最近では入院が必要にはなりますが手術と放射線治療の組み合わせによってかなりきれいに治せるようになってきました。もちろんこれらはすべて保険診療で行えます。

手術後のきずあとについて悩みがある場合はぜひ形成外科にご相談ください。

患者サポートセンターとは…

入院前から患者さんの「入院生活」や「退院後の生活」を見据え、住み慣れた地域で継続して生活できるように医師・看護師だけでなく医療ソーシャルワーカーや公認心理士、がん相談員、事務スタッフなどさまざまな職種で支援を行っています。

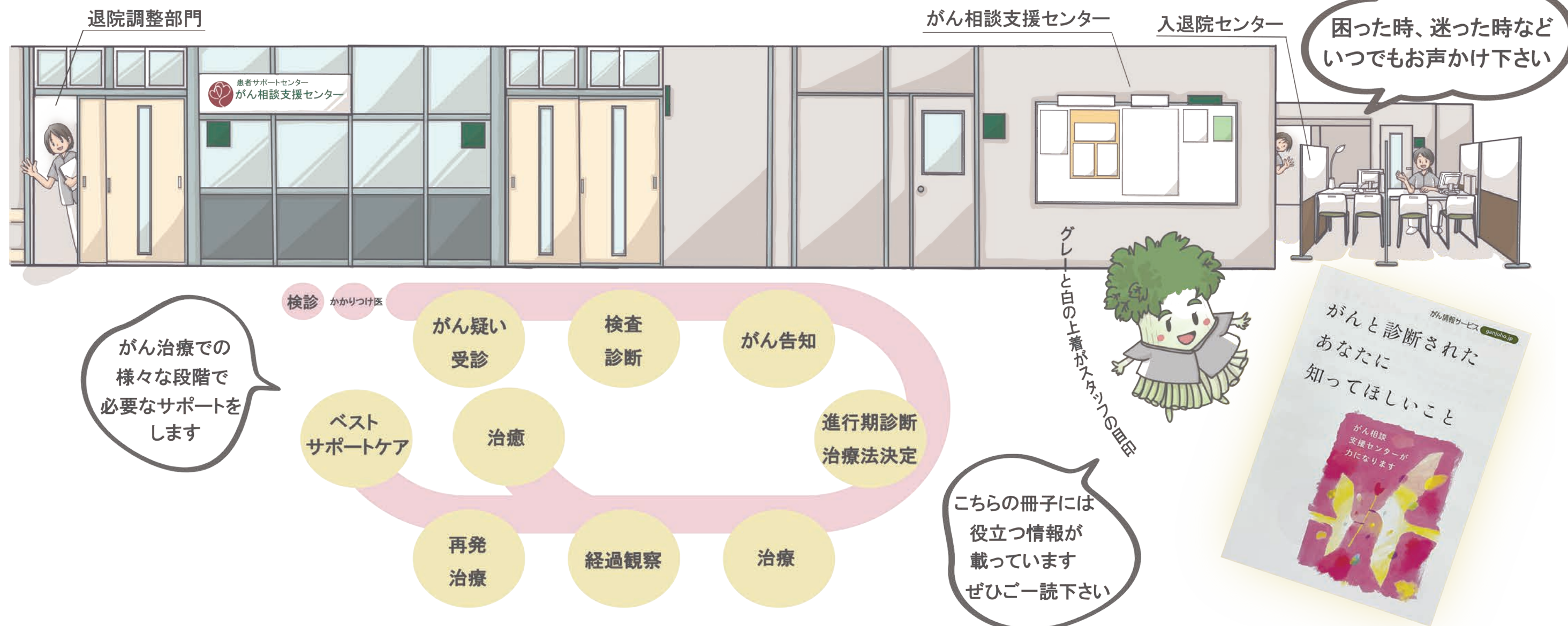
地域医療連携室（入退院センター含む）と相談支援センターが統合した患者サポートセンターはスタッフが連携・協力し患者さんやご家族のあらゆる相談に対応できるように努めています。

患者サポートセンターは 昔ながらの長屋のようなつくりになっています。困った時に相談できる、助け合えるそんな近所づきあいがかせなかった長屋のような、お付き合いを目指しておりますのでどうぞ、お気軽にご利用ください。

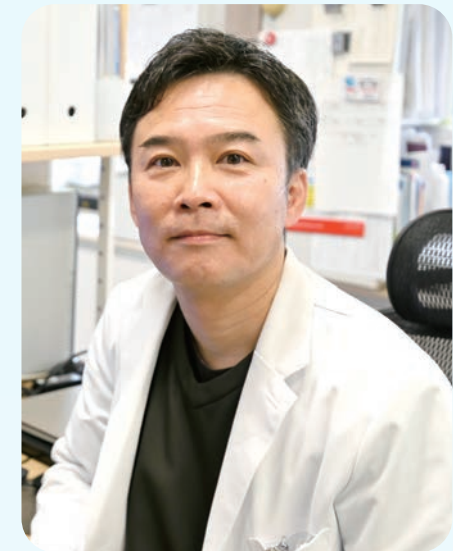
がん相談支援センター

がん専門病院の特徴としてがん相談支援センターがあり、がんに関するさまざまな相談をお受けしています。無料で予約は不要です。患者さんやご家族だけでなく、どなたでも可能です。窓口だけでなく電話でも対応いたします。

がん患者さんの生活を支援するため、ウィッグや乳がん手術後の補正下着の相談会、喉頭摘出患者や家族の相談会、ソシオエステティシャンによるアピアランス外来も行っています。



みやとも 宮友ト語ル 医療法人社団 洞口会 名取中央クリニック



ほらぐち じゅん
院長 洞口 淳

名取市出身。平成10年岩手医科大学医学部卒。仙台市医療センター仙台オープン病院で初期研修を行ったのち、同病院の消化器内科医として平成26年まで勤務。平成26年より名取中央クリニックの内科、平成28年からはクリニック院長に就任し現在に至る。平成14年～21年まで東北大学医学部消化器病態学研修員を兼務し、平成22年に医学博士号を取得。日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、総合内科専門医。

クリニックの紹介

当院は昭和60年に名取中央病院として開設したのち、平成8年より現在の名取中央クリニックに名称を変更し、さらに医療と介護の一体化をめざすため介護施設も併設し地域医療に携わって参りました。私自身は平成26年に仙台オープン病院を退職した後、地元である名取市に戻りクリニックの一員として開業医生活スタートしました。現在クリニックは内科、整形外科、リハビリ科、歯科を柱とし、4人の常勤医で診療にあたっております。内科、整形外科共に先代の叔父から世代交代する形で診療を受け継ぎ、整形外科は私

の弟である洞口潔先生がメインで担当し、内科は私の他に呼吸器専門医でもある洞口亮先生（私の従弟に当たります）が加わりフレッシュなメンバーで診療しております。内科は消化器、呼吸器、循環器の他に、高血圧症や糖尿病、脂質異常症などといった生活習慣病や発熱外来等日常遭遇するような様々な病態に対応しております。またそれぞれの専門分野をいかし、消化器では上部・下部内視鏡検査や腹部超音波検査を積極的にに行い、呼吸器科では気管支喘息や睡眠時無呼吸外来等も行っております。整形外科では脊椎疾患、四肢関節疾患、骨外傷等を中心に幅広く診療をしており、最近では超音波ガイド下のインターベンション治療な

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	/
14:00～18:00	○	○	○	/	○	/	/

※歯科の午後の診療時間は13:30～17:30まで

基本情報

- 【休診日】木曜午後・土曜午後、日祝日
- 【診療受付時間】9:00～12:00 / 14:00～18:00
- 【電話番号】022-383-5252
- 【住所】宮城県名取市増田字柳田8
- 【診療科】内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、整形外科
消化器内視鏡内科、リハビリテーション科、歯科（予約制）

公式HP



がんセンターに期待すること

私は仙台オープン病院時代胆・膵疾患を専門に診療しておりました。悪性胆膵疾患は難治がんの一つで、私が医者になった頃は診断や治療法も限られておりま

したが、最近では超音波内視鏡・画像診断能の向上や、手術・薬物療法を中心とした治療法の進歩により少しずつ治療成績の向上がみられている領域です。開業してからは胆膵疾患に遭遇するケースはめっきり減って、がん診療に関しては胃腸や大腸癌といった消化管がんを担当する機会が増加しました。消化器領域以外ではここ数年で咽頭癌、肺癌、骨・軟部腫瘍、後腹膜腫瘍、悪性リンパ腫、子宮・卵巣癌、腎癌、前立腺癌等様々な悪性疾患に遭遇し、がんセンターの各専門の先生方に大変お世話になりました。当院で提供できる医療は限られておりますが、可能な範囲で適切な診断を行い、疾患に応じて専門の高次医療機関へ紹介することが私の使命であります。発見時にすでに進行しているケースも少なくありませんが、集学的な治療が可能であるがんセンターは地域にとって非常に心強い存在であります。がんセンターには以前一緒に働いた先輩や同僚の先生方も多く在籍しており、患者様にも安心して治療を受けて頂ける施設であるとお話させていただいております。今後も宮城県のがん診療の中核施設として、最新のがん治療を提供していただけるものと期待しております。今後とも宜しく願っています。





当センター職員の可愛い家族を紹介します！

My Family



血液内科

原崎 頼子

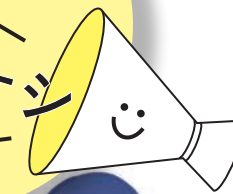


Kin ちゃん

吾輩は金魚である。名前はまだない。どこで生まれたかとうんと見当がつかぬ。宮城県立がんセンターつくし保育園の夏祭りに金魚すくいの金魚として連れてこられたことは記憶している。夏祭りの最後に「これだけ余っても仕方ないから、もらって行ってよ」と言われ、9匹の仲間とともに原崎家に連れてこられたのが2010年夏、今では吾輩1匹だけになってしまった。そういえば、東日本大震災は大変だったなあ。水槽の水がほとんどこぼれて、死ぬか、と思ったな。

この度はせりなべでご紹介いただくこととなり、金魚じゃあんまりだ、とのことでKinちゃんという名前までいただくことになった。原崎 Kin ちゃん、以後お見知りおきを。

知ってる？/
医療ソーシャルワーカー
(MSW) の オハナシ



「MSW って何をする人？」

皆さんは MSW をご存じでしょうか？

MSW の業務は「医療ソーシャルワーカー業務指針(厚生労働省健康局長通知)」に定められています。

(1) 療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助

受診や入院、在宅医療に伴う不安等の問題の解決や心理的支援。療養中の家事、育児、教育就労等の問題の解決の援助を行う。

(2) 退院援助

退院に向けた社会資源の活用や関係機関・関係職種との連携、転院や在宅医療に伴う患者、家族の不安等の問題の解決の援助を行う。

(3) 社会復帰援助

職場や学校と調整を行い、復職、復学などの社会復帰が円滑に進むように援助を行う。

(4) 受診・受療援助

診断や治療を拒否する等の理由となっている心理的・社会的問題についての解決の援助を行う。

(5) 経済的問題の解決、調整援助

医療費や生活費に困っている場合に、社会福祉、社会保険等の機関と連携を図りながら援助を行う。

(6) 地域活動

地域包括ケアシステムへの参画など、地域におけるネットワークづくりに貢献する。

右記の業務指針を見てもわかるように、MSW の業務は退院支援に関することだけではありません。本来は患者さんや家族が抱える心理的・社会的問題などの解決に向けた全般的な支援を業としています。

業務内容が多岐にわたっておりますので、他病院では退院支援部門だけではなく、がん相談支援センターや医療福祉相談室等にも配属されています。

「がんセンターの MSW はどこにいる？」

当院には3名の MSW が地域医療連携室に在籍しております。3名ともそれぞれ病棟を担当しており退院調整専任医療ソーシャルワーカーとして勤務しております。主治医、病棟看護師、リハビリスタッフ、栄養士、薬剤師等様々なスタッフと協力しながら退院支援を行っています。



ぶらり書架めぐり

がんを自分らしく生ききる

村川 康子／著 幻冬舎



およそ25年間、最前線でがん治療に携わってきた村川康子医師(宮城県立がんセンター前腫瘍内科診療部長)のがん治療へのリアルな思いが、患者さんの21の不安に対する返答形式で綴られる。ただの延命だけでなく、がんを自分らしく生ききるための手がかりとなる。

せりなべ9号

編集後記

文 海法 道子

9号を手に取り、最後までお読みいただきありがとうございます。今回は知っておいた方が絶対いい！知らないで損する？がんよろず相談所(患者サポートセンター)を紹介させていただきました。がん診断されて何から準備したらいいのだろう、治療費はどうなるのだろう、何とか治療が終わったけれど以前と同じような生活が送れるのだろうか、など様々な不安・疑問を少しでも解決しながら前に進むお手伝いをするスタッフが沢山待っています。より良い治療期間、その後の療養、日常生活に繋がる一歩となるよう全力でサポートしますので、どうぞお気軽にお声がけください。

次号は創刊10冊目、節目の秋号もご期待ください。

○せりなべの料理人

編集委員長：海法道子 副委員長：猪岡京子、菅尚明

編集委員：鎌田真弓、渡邊香奈、大久保鉄平、佐藤美和、佐藤夏苗、佐竹直子、荒野幸恵、山口佳代、高橋央、能登ちひろ、野村結花

写真・構成：広報担当



みやがん広報室からのお知らせ

● がん情報ラジオのお知らせ

当センターでは、がんセンターのスタッフががんに関する話題を紹介していくラジオ番組「がん情報ラジオ」をエフエムなとりにて放送しています。
放送時間は、毎週金曜夕方方 5 時 30 分から 5 時 44 分、翌日土曜日の午前 9 時 15 分から 9 時 29 分に再放送も行っております。



● ご意見・ご感想の募集

広報誌「せりなべ」に関するご意見・ご感想を募集しております。下記のフォームから皆さまの声をお寄せください。

● SNS アカウントを開設しました

ぜひご登録ください。



投稿フォーム



宮城県立がんセンター広報誌

せりなべ 夏号 2024 年 7 月 1 日発行 Vol.9

みやがん広報室

検索

本誌はホームページからご覧いただけます。



地方独立行政法人宮城県立病院機構

宮城県立がんセンター

〒 981 - 1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山 4 7 の 1

<https://www.miyagi-pho.jp/mcc/>

【広報誌に関するお問合せ】 TEL 022-384-3151 (代)

